

平成 28 年度 侵略的外来生物県民参加モニタリング調査 マニュアル

1 調査方法

調査団体は、三次メッシュを基準にして、メッシュ内の外来種について調査する。

調査ルートはそれほど厳密なものでもなくともよい。

メッシュ内で外来種がありそうな、いそうな場所を 1～2 時間ほどかけて歩き、別紙調査対象種（指定種）を記録する。別紙にない外来種についても観察した際には記録する、これは任意種とする。

原則として、1 メッシュにつき「植物データと動物データを 1 セット」として報告する。

2 調査対象区域

県内であれば場所は特に問わない。これまで調査した場所について改めて調査することも可能。

報告書にはその種が見られた環境を分類記号で記入する。

メッシュがなるべく重ならないようにするため、NPO 法人自然観察指導員埼玉のホームページにて、登録された（計画書の提出があった）メッシュコードを掲示する予定。

メッシュが隣り合うこともよいが、可能な限り広い範囲での調査を期待したい。

3 調査期間

現地調査：平成 28 年 5 月～12 月 調査データ提出：平成 29 年 1 月 13 日

※平成 30 年 12 月まで調査を継続し、県内のデータを広く収集する予定。

毎月 1 回とこだわらない。植物の開花期に合わせて、連続して調査することも可能。

1 年間に 8 セット以上の報告を求める。

ただし、植物は開花期が異なるものがあるので、同じメッシュを 2 回まで調査しても差し支えない。これは 2 セット扱いとする。

4 調査対象種

環境省作成の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」の掲載種を中心に、明治以後侵入の植物並びに動物を指定種とする。（別紙参照）

5 記録方法

昨年度と同様のエクセル直接入力方式とする。

環境分類を記入する際は、A：雑木林、B：河川敷、C：水田・休耕田・畑、D：市街地とする。

調査項目は昨年度のものと同じとする（これまでのデータと整合性を持たせるため）。

同一種が、環境区分が異なる場所にあらわれたときは、それも記録し、環境区分ごとに集計する。

植物 株数または大きさ・広がりについて環境区分毎に、メッシュ内最大のものを最終記録とする。

生活段階 ①幼植物 ②成葉のみ ③つぼみ ④開花 ⑤結実 ⑥凋落

大きさ・広がり	a 1-3 株	b 4-9 株	c 10-99 株
	d 100-999 株	e 1000-9999 株	f 10000 株以上
	g 0.05m ² 未満	h 0.25m ² 未満	i 1m ² 未満
	j 10m ² 未満	k 100m ² 未満	l 100m ² 以上

a～f、または g～l、のどちらかで記録する。集計のときは a=g、b=h、…の扱いとなる。

動物 環境区分毎に、合計個体数を記載する

確認方法 ③生体 ④死体 ⑤鳴き声 ⑥生活痕

個体数 原則としてカウントするが、10 個体以上で、不確定な場合には以下を使う。

a : 10-19 b : 20-29 c : 30-49 d : 50-99 e : 100 以上

6 調査データの提出

調査終了後、昨年度と同様のエクセル直接入力表にまとめて提出する。

7 その他（スポット報告）

データを広く集めるため、定められたメッシュ以外で、オオキンケイギク等の指定種を発見した場合には、上記入力方法に準じて報告していただきたい。

(別添)調査対象種

平成28年度侵略的外来生物県民参加モニタリング調査対象種リスト

特： 特定外来生物
 緊： 緊急対策外来種
 重： 重点対策外来種
 他： その他の総合対策外来種
 産管： 産業管理外来種
 順位： 調査の優先順位

植物 (ランク順、和名順)

No	APG科名	和名	ランク	順位
1	(ウリ科)	アレチウリ	特緊	1位
2	(オオハコ科)	オオカワヂシャ	特緊	1位
3	(キク科)	オオキンケイギク	特緊	1位
4	(アリトウグサ科)	オオフサモ	特緊	1位
5	(キク科)	ミズヒマワリ	特緊	1位
6	(ヒルガオ科)	アメリカアサガオ	重	1位
7	(キク科)	オオアワダチソウ	重	1位
8	(キク科)	オオブタクサ	重	1位
9	(アブラナ科)	オランダガラシ	重	1位
10	(アヤメ科)	キシウブ	重	1位
11	(アカハナ科)	コマツヨイグサ	重	1位
12	(イネ科)	シナダレスズメギヤ	重	1位
13	(キク科)	セイタカアワダチソウ	重	1位
14	(キク科)	セイヨウタンポポ	重	1位
15	(ニガキ科)	ニワウルシ	重	1位
16	(ツクサ科)	ノハカタカラクサ	重	1位
17	(スベリヒユ科)	ヒメマツバボタン	重	1位
18	(ミスアオイ科)	ホテイアオイ	重	1位
19	(ヒルガオ科)	マメアサガオ	重	1位
20	(ヒルガオ科)	マルバルコウ	重	1位
21	(カヤツクサ科)	メリケンガヤツリ	重	1位
22	(キク科)	アメリカオニアザミ	他	1位
23	(キク科)	アメリカセンダングサ	他	1位
24	(ヒルガオ科)	アメリカネナシカズラ	他	1位
25	(マメ科)	アレチヌスビトハギ	他	1位
26	(クマツヅラ科)	アレチハナガサ	他	1位
27	(好`科)	エゾノギンギシ	他	1位
28	(キク科)	オオオナモミ	他	1位
29	(カタミ科)	オオキバナカタバミ	他	1位
30	(イネ科)	オオクサキビ	他	1位
31	(イネ科)	キシウスズメノヒエ	他	1位
32	(イネ科)	シマスズメノヒエ	他	1位
33	(好`科)	シャクチリソバ	他	1位
34	(イネ科)	セイバンモロコシ	他	1位
35	(アブラナ科)	セイヨウカラシナ	他	1位
36	(ユリ科)	タカサゴユリ	他	1位
37	(好`科)	ツルドクダミ	他	1位
38	(好`科)	ナガバギシギシ	他	1位
39	(ヒガンバナ科)	ハナニラ	他	1位
40	(イネ科)	ハルガヤ	他	1位
41	(キク科)	ハルシャギク	他	1位
42	(キク科)	ヒメジョオン	他	1位
43	(好`科)	ヒメツルソバ	他	1位
44	(アヤメ科)	ヒメヒオウギズイセン	他	1位
45	(キク科)	フランスギク	他	1位
46	(ヒルガオ科)	ホシアサガオ	他	1位
47	(ナデシコ科)	ムシトリナデシコ	他	1位

No	APG科名	和名	ランク	順位
48	(イネ科)	メリケンカルカヤ	他	1位
49	(クマツヅラ科)	ヤナギハナガサ	他	1位
50	(イネ科)	アメリカスズメノヒエ	産管	1位
51	(イネ科)	オオアワガエリ	産管	1位
52	(イネ科)	オニウシノケグサ	産管	1位
53	(イネ科)	カモガヤ	産管	1位
54	(イネ科)	ナギナタガヤ	産管	1位
55	(マメ科)	ナヨクサフジ	産管	1位
56	(イネ科)	ネズミムギ	産管	1位
57	(マメ科)	ハリエンジュ	産管	1位
58	(イネ科)	ホソムギ	産管	1位
59	(イネ科)	イヌムギ	一般外来	2位
60	(キク科)	ウラジロチチコグサ	一般外来	2位
61	(オオハコ科)	オオイヌノフグリ	一般外来	2位
62	(カタミ科)	オッタチカタバミ	一般外来	2位
63	(キク科)	オニノゲン	一般外来	2位
64	(ナデシコ科)	オランダミミナグサ	一般外来	2位
65	(キク科)	ククイモ	一般外来	2位
66	(キク科)	コセンダングサ	一般外来	2位
67	(ナデシコ科)	コハコベ	一般外来	2位
68	(キク科)	ノゲン	一般外来	2位
69	(キク科)	ノボロギク	一般外来	2位
70	(キク科)	ハキダメギク	一般外来	2位
71	(シソ科)	ヒメオドリコソウ	一般外来	2位
72	(キク科)	ヒメムカシヨモギ	一般外来	2位
73	(オオハコ科)	ヘラオオハコ	一般外来	2位
74	(アカハナ科)	メマツヨイグサ	一般外来	2位
75	(アカハナ科)	ユウゲショウ	一般外来	2位
76	(ヤマゴボウ科)	ヨウシュヤマゴボウ	一般外来	2位
77		その他の外来任意種	一般外来	3位

動物 (区分順、ランク順)

No	区分	和名	ランク	順位
1	哺乳類	アライグマ	特緊	1位
2	哺乳類	ハクビシン	重	1位
3	哺乳類	マスクラット	特重	1位
4	鳥類	ガビチョウ	特重	1位
5	鳥類	カオグロガビチョウ	特重	1位
6	鳥類	カオジロガビチョウ	特重	1位
7	鳥類	ソウシチョウ	特重	1位
8	爬虫類	アカミミガメ	緊	1位
9	両生類	ウシガエル	特重	1位
10	両生類	ヌマガエル(国内由来)	重	1位
11	魚類	ブルーギル	特緊	1位
12	魚類	コクチバス	特緊	1位
13	魚類	オオクチバス	特緊	1位
14	魚類	カダヤシ	特重	1位
15	蝶類	ホソオチョウ	重	1位
16	蝶類	アカボシゴマダラ	重	1位
17	甲虫類	クビアカツヤカミキリ	他	1位
18	クモ類	ハイイロゴケグモ	特緊	1位
19	クモ類	セアカゴケグモ	特緊	1位
20	クモ類	クロゴケグモ	特緊	1位
21	甲殻類	アメリカザリガニ	緊	1位
22	軟体動物	スクミリンゴガイ	重	1位